

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)中部国際空港ホテル新築工	階数	地上13F
建設地	愛知県常滑市セントレア一丁目1,2,3	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	252人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年7月 予定	評価の実施日	2016年4月1日
敷地面積	831 m ²	作成者	
建築面積	586 m ²	確認日	2016年4月1日
延床面積	5,537 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 74%

③上記+②以外の 74%

④上記+ 74%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.8

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 重点項目									
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">4.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">1.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td style="text-align: center;">0.0 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td style="text-align: center;">0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %								
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %								
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">2.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">1.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2">＜外装材に使用した地域性のある材料＞</td> </tr> <tr> <td>なし</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">＜建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材＞</td> </tr> <tr> <td>なし</td> <td></td> </tr> </table>	＜外装材に使用した地域性のある材料＞		なし		＜建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材＞		なし	
＜外装材に使用した地域性のある材料＞									
なし									
＜建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材＞									
なし									

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出
 ④地域材の活用
 Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音								
1.2 遮音								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
3.2 グレア対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
4.2 換気								
4.3 運用管理								
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1.2 心理性・快適性								
1.3 維持管理								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
2.2 部品・部材の耐用年数								
2.4 信頼性								
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり								
3.2 荷重のゆとり								
3.3 設備の更新性								

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q3 室外環境(敷地内)								
1 生物環境の保全と創出	独自③			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			2.5	0.30	-	-	2.5
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	
				2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性								
LR1 エネルギー								
BPI=0.862								
1 建物外皮の熱負荷抑制				4.3	0.30	-	-	4.3
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化								
集合住宅以外の評価(3a.3b)				5.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)				-	-	-	-	
4 効率的運用								
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル								
1 水資源確保								
1.1 節水		節水コマ・定流量弁により流出量を調節。節水型器具を採用して		3.4	0.15	-	-	3.4
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				4.0	0.40	-	-	
雨水利用システム導入の有無				3.0	0.60	-	-	
雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	
				3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減								
2.1 材料使用量の削減				2.5	0.63	-	-	2.5
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.07	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	-		3.0	0.24	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	-		3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				1.0	0.20	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自			2.0	0.05	-	-	
				3.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避								
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.22	-	-	3.0
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.32	-	-	
1 消火剤				3.0	0.68	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				-	-	-	-	
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	
				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境								
1 地球温暖化への配慮								
1	①	ライフサイクルCO2概算値:74%		4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮								
2.1 大気汚染防止								
2.2 温熱環境悪化の改善				2.5	0.33	-	-	2.5
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自			-	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	独自			3.0	0.33	-	-	
3 交通負荷抑制				3.0	0.33	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮								
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								
1 騒音	独自			3.0	0.40	-	-	
2 振動	独自			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭				3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制								
1 風害の抑制				3.0	0.40	-	-	
2 砂塵の抑制				3.0	0.70	-	-	
3 日照障害の抑制				3.0	-	-	-	
3.3 光害の抑制								
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.30	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.20	-	-	
				3.0	0.70	-	-	
				3.0	0.30	-	-	

重点項目スコアシート

(仮称)中部国際空港ホテル新築工事

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10	
② 資源の有効活用				2.7
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称) 中部国際空港ホテル

計画上の配慮事項	
総合	<p>快適なホテル環境の確保 ホテル運営者が求める機能、メンテナンス性能の確保 宿泊者に安心を感じてもらえるセキュリティ機能の確保</p>
Q1 室内環境	<p>客室は個別にルームエアコンを設置 ホテル館内はすべて禁煙 客室遮音性の確保 天井高2.55mの確保と大型窓による開放感の確保</p>
Q2 サービス性能	<p>清掃が容易に行えるよう配慮 排水縦管系統を細かく区分け 宿泊者の利便性の確保(自動販売機、コインランドリー)</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>空港敷地内建物に配慮した建物高さ・外観</p>
LR1 エネルギー	<p>個別空調方式・全熱交換器の採用 LED照明器具の採用 ヒートポンプ給湯器(エコキュート)の採用</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>節水型衛生器具の採用</p>
LR3 敷地外環境	<p>LCCO2排出値が低い設備を導入</p>
その他	